

北海道大学大学院環境科学院 環境起学専攻
実践環境科学コース

2022 年度 4 月入学大学院修士課程入学試験問題(秋季入試)

専門科目

【開始の指示があるまで、この問題冊子を裏返したり、開いてはいけません】

- この冊子は 3 頁ある。
- 1 問につき 1 枚の答案用紙を使用すること。
- 答案用紙の表に書ききれない場合は裏を使用すること。
- 答案用紙には科目名と問題番号を記入すること。

2021 年 8 月 24 日

小論文

小論文は2問ある。問1および問2に解答せよ。

問1

あなたが行ってみたい「提案型インターンシップ」の具体的な案を一つ考え、a)、b)、c)で指示された事項を中心に論理的に記述せよ。

- a) 提案型インターンシップの内容と目的
- b) 環境科学もしくは持続可能性としての意義
- c) 配慮すべきことや、予想される問題点および対処方法

なお、提案型インターンシップとは、あなたが数ヶ月～半年間程度かけて「持続可能な社会づくりにかかわる企画を現場に提案し、議論を重ね、現場の人とともに実施する」ものである。この提案を入学してから必ずしも行う必要はない。また、修士論文研究のテーマに沿ったものでなくてもよい。

問 2 下記の(2A)、(2B)のうち、1つを選択し、解答せよ。

(2A) 2015年国連総会で採択した「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」(UN, 2020)の前文を下に示す。(i)、(ii)に答えよ((i)と(ii)合わせて20-45行)。

(i) 下線^(a)持続可能な開発について、その概念や背景を説明せよ。

(ii) 下線^(b)大胆かつ変革的な手段、^(c)誰一人取り残さないこと、^(d)統合され不可分について、それぞれ、具体的事例を含めて、説明せよ。

前文

このアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画である。これはまた、より大きな自由における普遍的な平和の強化を追求するものでもある。我々は、極端な貧困を含む、あらゆる形態と側面の貧困を撲滅することが最大の地球規模の課題であり、^(a)持続可能な開発(sustainable development)のための不可欠な必要条件であると認識する。

すべての国及びすべてのステークホルダーは、協同的なパートナーシップの下、この計画を実行する。我々は、人類を貧困の恐怖及び欠乏の専制から解放し、地球を癒やし安全にすることを決意している。我々は、世界を持続的かつ強靱(レジリエント)な道筋に移行させるために緊急に必要な、^(b)大胆かつ変革的な手段(the bold and transformative steps)をとることに決意している。我々はこの共同の旅路に乗り出すにあたり、^(c)誰一人取り残さないこと(no one will be left behind)を誓う。

今日我々が発表する17の持続可能な開発のための目標(SDGs)と、169のターゲットは、この新しく普遍的なアジェンダの規模と野心を示している。...(中略)...これらの目標及びターゲットは、^(d)統合され不可分(integrated and indivisible)のものであり、持続可能な開発の三側面、すなわち経済、社会及び環境の三側面を調和させるものである。...(後略)...

「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」[外務省仮訳](UN, 2020)より

(2B) 国連の報告書“The Sustainable Development Goals Report 2020”(UN, 2020)の 35 ページには、下のような文章と図がある。(i)、(ii)、(iii)に答えよ((i)(ii)(iii)の全体で 20-45 行程度)。

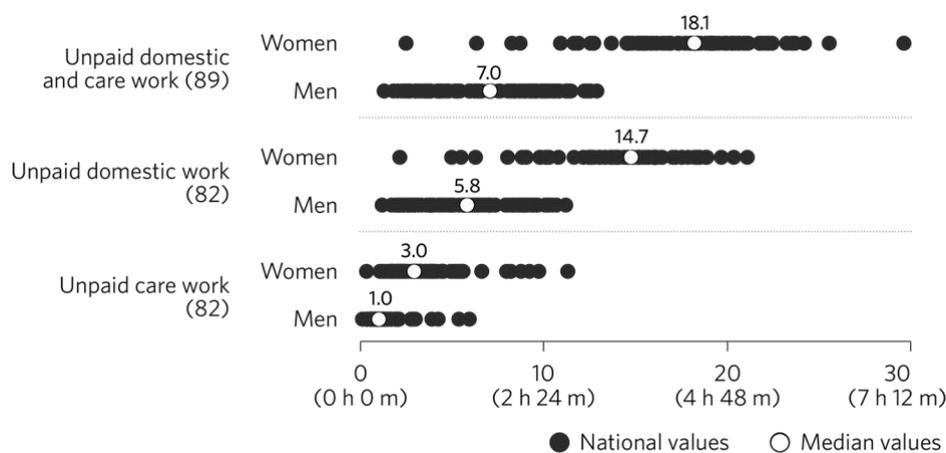
- (i) 文章と図から読み取った内容を説明せよ。
- (ii) 文章と図に関するあなたの解釈や考えについて論ぜよ。
- (iii) この文章と図が報告書に掲載されている意図について論ぜよ。

Women spend more time than men in unpaid work, a burden that is likely to get heavier during the pandemic

In an average day, women spend about three times as many hours in unpaid domestic and care work as men, according to the latest data from 89 countries and areas between 2001 and 2018. Time spent in these activities tends to be even higher for women with young children at home. In roughly 75 per cent of countries with trend data, a small decrease has been observed in the time spent by women on unpaid domestic and care work compared with that spent by men.

The COVID-19 crisis is radically changing how people, particularly women, spend their time – often with a negative impact on their well-being. A poll conducted in 17 countries shows that both women and men are taking more responsibility for household chores and the care of children and family during the lockdown, but the majority of work continues to fall on women and girls, reflecting a pre-pandemic pattern.

Proportion of time spent on unpaid domestic and care work, women and men, 2001–2018 (latest available) (percentage of time spent per day)



Note: The figure reflects available data for 89 countries and areas over the period 2001–2018. The number of countries and areas represented in each type of unpaid work is indicated in parentheses.

参考: poll: 世論調査、household chore: 家事

“The Sustainable Development Goals Report 2020”(UN, 2020)より

【問題冊子はこちらまで】